

# 業務用ナバナの連続収穫技術

農業試験場 研究員 嶋本 旭寿

## 【要約】

県内主要品種である‘CR 花かんざし’を主体とした連続収穫技術の開発に取り組んだ。‘CR 花かんざし’と‘CR 華の舞’を同日播種するとともに、‘CR 花かんざし’を1週間ずらして2回に分けて播種することで、連続収穫が可能であった。

## 【背景・ねらい】

本県における業務用ナバナ栽培では、平成29年度に農業試験場が有望品種に選定した‘CR 花かんざし’の導入が進んでおり、生産者からは収量・品質面で高い評価を受けている。しかし、ナバナは収穫の波が大きいという問題があり、安定した連続収穫技術が求められている。そこで、‘CR 花かんざし’と同日播種でも収穫ピークの分散が可能な品種（6品種供試）を選定するとともに、‘CR 花かんざし’の播種日の分散効果について調査を行った。

## 【成果の内容・特徴】

1) ‘CR 花かんざし’と同日播種でも収穫ピークを分散できる品種として‘CR 華の舞’を選定した。‘CR 華の舞’では‘CR 花かんざし’の約1か月後に一次側枝の収穫ピークを迎えることができる。

また、‘CR 花かんざし’の播種日を1週間ずらすことで、収穫ピークを約2週間遅らすことができる。これらを組み合わせることで、12月中旬から3月上旬にかけて安定した連続収穫が可能となる（図1）。

2) ‘CR 華の舞’は‘CR 花かんざし’と比べて秀品率が高く、栽培期間中の規格品収量も多い（表1）。また、‘CR 華の舞’は葉色が濃く、粒揃いも良いことから、‘CR 花かんざし’と同等以上の品質である（写真1）。



写真1 ナバナ規格品（左：CR 花かんざし、右：CR 華の舞）

表1 品種別の収量および秀品率

品種名	1株あたり収量(g/株)		秀品率(%)
	規格品	規格外品	
CR花かんざし①	198.1	70.3	74
CR花かんざし②	167.3	67.6	71
CR華の舞	214.8	26.5	89

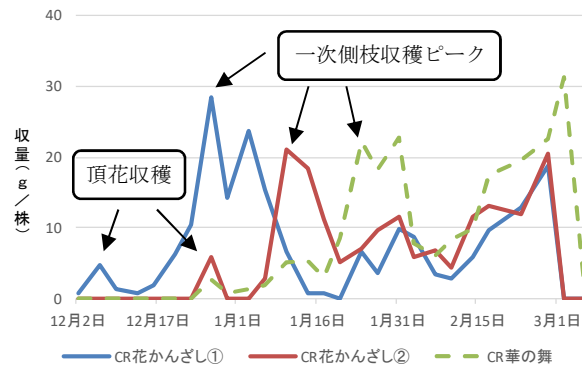


図1 時期別の規格品収量  
※ 播種日 9月11日…CR花かんざし①、CR華の舞  
9月18日…CR花かんざし②